

資 料

古代の史料に現れるカモ県主一族の人名

藤木文雄

I 新撰姓氏録の中の賀茂県主の同族名

No.	氏の名	姓氏録の本文	注 記
1	賀茂県主 <small>かものあがたぬし</small>	賀茂県主。神魂命 <small>かみむすびのみこと</small> の孫、武津之身命 <small>たけつのみのみこと</small> の後 <small>すま</small> なり。	<p>1) 賀茂の氏名は後の山城国愛宕郡賀茂郷の地名にもとづく。</p> <p>2) 賀茂県主の旧氏名は鴨禰宜真髮部。「続紀」の宝亀 11<780>年 4 月庚申条に「山背国愛宕郡の人正六位上鴨禰宜真髮部津守等一十人に賀茂県主の姓を賜う」とみえる。鴨禰宜真髮部の旧姓は鴨禰宜白髮部。延暦 4<785>年 5 月、桓武天皇の、白髮部の姓は先帝光仁天皇の名白壁王に触れるので以後真髮部に改姓せよ、との勅によって改めた。宝亀 11 年の続紀の記事はこの延暦 4 年の事実を遡らせた追記。</p> <p>3) 下鴨系図の小止知之命の譜に鴨禰宜白髮部腹申とある。一族に、鴨禰宜白髮部防人<small>かきもり</small>がいる(後述、天平 20<748>年 4 月 25 日付「写書所解」)。</p> <p>4) 神魂命は記紀に別天神五柱として高天原系の高皇産靈尊<small>たかみかほら たかみかす</small>と並び名がある。少彦名命<small>すくなひこなのみこと</small>の父神で出雲系の神</p> <p>5) 武津之身命。同祖とする各氏で表記が異なる(後出)。</p>
2	鴨県主 <small>かものあがたぬし</small>	鴨県主〔 <small>ほんけい</small> 本系〕。賀茂県主と同じき祖。〔神魂命の孫、武津之身命の後なり。〕 神日本磐余彦 <small>かむやまといわれびこの</small> 〔命子〕 天皇 <small>すめらみこと</small> (諡は神武) 中州 <small>うちつくに</small> に向 <small>い</small> さんとするとき、山の中嶮絶 <small>あき</small> しくして、跋 <small>あ</small> み涉 <small>ゆ</small> かむに路を失う。是に、神魂命の孫、鴨建津之身命 <small>かものたけつのみのみこと</small> 、大きな鳥と化如りて、翔 <small>あ</small> び飛 <small>か</small> り <small>み</small> 導 <small>みちびき</small> 奉 <small>つ</small> りて、遂に中州に達 <small>と</small> り	<p>1) この条には本文のほか逸文があり、〔〕で示す。逸文は下鴨社家の鴨脚家本『新撰姓氏録残簡』に収録されている。現存の抄本には本系の字はないが、原本には本系という記載があった事が他氏の条の記事で確かめられている。</p> <p>2) 鴨の氏名は後の山城国愛宕郡賀茂郷の地名にもとづく。</p> <p>3) 鴨県主氏の同族と称した鴨県主族<small>かものあがたぬしのやから</small>氏の名も残る。</p> <p>4) 正倉院文書(写書所解、山背国愛宕郡計帳、優婆塞貢進解など)、六国史などに多くの人名がみえる(後述)。また、『賀茂神官鴨氏系図』、『賀茂御祖皇太神宮禰宜河合神職鴨県主系図』など古伝のみられる系図が残る(後述)。</p> <p>5) 賀茂県主と同じき祖 この下の原文 12 字「神魂命孫武津之身命之後也」が抜けている。</p> <p>6) 神日本磐余彦天皇以下の所伝 『古事記』神武天皇段、</p>

		<p>る。天皇その功有るを嘉したまひて、禱に厚く褒め賛ふ。天八咫鳥の身は此れ従り始りき〔因りて葛野縣を賜りて居れり。男、玉依彦命の十一世孫、大伊之伎命の男、大屋奈世、箸箒彦天皇(繼は成務)の御世に、鴨県主に定め賜ふ。男、荒熊、男、秋、男、荒木、男、長屋、次に多々加比。長屋の男、麻作等也</p>	<p>『日本書紀』神武天皇即位前紀戊午6月丁巳条、『古語拾遺』に同様の記事がある。</p> <p>7) 中州 中洲は大和の国。</p> <p>8) 山の中云々 『日本書紀』神武天皇即位前紀戊午年6月条の原文を引用。</p> <p>9) 神魂命 賀茂県主条に同じ。『旧事紀』はその神代系紀に神皇産靈尊(神魂命)の子に天神玉命をあげ、「葛野鴨県主等祖」とある。また、同書の天神本紀にも「天神神魂命。葛野鴨県主等祖」とみえ、また同紀は天櫛玉命をあげ、「鴨県主等祖」とも記す。</p> <p>10) 鴨建津之身命 『山城風土記』逸文には賀茂建角身命とする。日向から葛木、岡田の賀茂、をへて久我の国の北の山基に鎮まり、丹波神野の神伊可古夜日女を娶り玉依日子、玉依日売を生んだ。その玉依日売が丹塗りの矢に感じて別雷神を生んだという有名な賀茂縁起を記す。</p> <p>11) 天八咫鳥 「古事記」は八咫鳥、「日本書紀」は頭八咫鳥とある。日本書紀神武天皇2年2月乙巳条に「頭八咫鳥、亦入賞例。其苗裔、即葛野主殿県主部也」とあり、本条の逸文にも、因賜葛野県居焉とある。</p>
3	<p>矢田部</p>	<p>矢田部。鴨県主と同じき祖。鴨建津身命の後なり。</p>	<p>1) 矢田部の氏名は「古事記」仁徳天皇段の「為八田若郎女之御名代、定八田部」という名代部としての矢田部の伴造か、その部民の後裔氏族であったことにもとづく。この名代は、伊勢、駿河、伊豆、武蔵、御野、毛野、陸奥、佐渡など東國に広く設定され、65名の人名が古代の戸籍に登載されている。</p> <p>2) 矢田部の伴造氏族は、伊香我色雄命の後裔と称する摂津神別の矢田部造と、その同族と称する左京神別の矢田部連、河内国神別の矢田部首がある。</p> <p>3) 山城国には、山背国宇治郡大国郷に矢田部(造)麻呂(天平宝宇5<761>年11月2日付家地売券)や、麻呂の名のある文書の端裏書の矢田部豊嶋(院東井戸矢田部豊嶋家券文)の名が見えるが、この矢田部造氏が本条の矢田部氏と同族で鴨建津身命の後裔であったかは未詳である。</p>
4	<p>文部</p>	<p>文部。上に同じ。</p>	<p>1) 本条の史料は他に見当らず。乙訓郡の文部谷直氏は諸蕃の漢師建王乃後也とあって別氏。</p>

5	かむちのほづかしべ 西泥土部	西泥土部。鴨 ^{かもの} 県主 ^{あがたぬし} と 筒 ^{かや} じき ^{かもの} 祖 ^{たけたま} 。鴨 ^{かもの} 建 ^{たけ} 玉 ^{たま} より ^{より} ひ ^ひ の ^の み ^み こと ^{こと} ^{すえ} 依 ^よ 彦 ^{ひこ} 命 ^{のみこと} の後 ^{のち} なり。	1) 西は河内の意、泥土部は泥部と同じ、土器、瓦を造る部の伴造氏族であった。氏の本拠は山城国乙訓郡羽東師郷。泥部は泊樞部とも書く。泥部氏に泥部造(天武紀12<683>年9月条)、羽東造(同条)の伴造2氏があって天武12年連の姓を賜る。令制で土工司に属し「土工司20人<穴云。泥部者。古言。波都加此乃友部。」(令集解職員令)とある。2) 鴨建玉依彦命 鴨県主条逸文玉依彦命に同じ。3) 賀茂御祖神社文書「一中職名」に、 ^{こうどの} 神殿小預、 ^{おおいとの} 大炊殿預、 ^{くごどの} 供御殿預、三職を家職とする ^{くじん} 駟人(公人・中堀、道風両家)があり、姓西泥土部と記す(鴨社、「拾箇条区别注進書二」、明治3年7月神祇官役所差出)。明治末の「下鴨村志」(明治41年愛宕郡役所刊)にも賀茂御祖神社職員の駟人を記し、鴨氏建津身命第五世(?)の多加比より別る西泥土氏とし、賀茂注進雜記も社役人に土器師8人(深草石見五郎様器)と記す。同一氏であろう(別雷社境内末社土師社は祖神を祀る)。
6	はかりべ 祝部	祝部。同じき ^{かや} 祖 ^{たけつ} 。建 ^{たけ} 角 ^つ 身 ^み 命 ^{のみこと} の後 ^{のち} なり。	1) 祝部の氏名は、神に仕える祝部(祝)の職掌、具体的には鴨(賀茂)神社の祝であったことによる。 2) 『賀茂神官鴨氏系図』など、鴨県主氏系図の鴨県主賀 ^か 豆 ^ま の譜に「此人五世子孫鴨県主宇志、大津朝仕奉、而庚午年籍負祝部姓」とあって、 ^{こうごほんじやく} 庚午年籍(天智天皇9<670>年の戸籍)に祝部の姓を負ったと伝える。 3) この一族に、祝部枚麻呂(「以祝部枚麻呂。補正一位勲一等鴨別雷大社祝」『類聚国史』天長元<824>年4月甲辰条)、祝部春里(『年中行事秘抄』四月下酉日加茂祭例、天歷4<950>年4月5日壬申条)、祝部真茂(『中右記』裏書『御記』天歷7<953>年2月12日条)の名がある。春里は鴨別雷社祝次いで禰宜、真茂は山城国乙訓社祝であった。 4) この、別雷社の祝の祝部氏は、後一条院の御宇、長元年間<1028~1037>、祝、祝部元延(信とも)の時、禰宜安頼の挙状によって賀茂氏に改められ以後禰宜、祝ともに賀茂氏となったと、賀茂社家系図本巻正祝成頼(保安2<1121>卒)の譜文に記されている。なお、この元信は神主成真を永承3<1048>年8月25日夜貴布祢社の前で射殺した廉で罪せられたとある。

			<p>5) 近江国志賀郡日吉神社(現日吉大社)神官の祝部^{すくぬ}宿禰氏は鴨県主宇志の後裔と称した。祝部宿禰友永(禰宜)、同成房(神主)、同惟成(祝)、頼永(禰宜総官)などがある。この家系は歌人を多く出し、平安末の禰宜祝部宿禰成仲は歌人で神主賀茂重保と親しく歌林苑の仲間て千載集などの勅撰集に入集している。</p>
--	--	--	--

注) ^{しんせんせいしよく}新撰姓氏録 古代諸氏族の系譜書。30巻目録1巻。弘仁6<815>成立。冒名冒蔭の盛行による氏姓秩序の混乱を断つため、桓武天皇が諸氏に本系帳を進上させ、さらに嵯峨天皇が万多親王や藤原園人らに編纂を命じて完成させたもの。左右京・山城・大和・摂津・河内・和泉の1182氏族を、皇別・神別・諸蕃・未定雑姓に類別し、それぞれの出自、姓氏名の由来、始祖・別祖と支流氏族、改賜姓などを記述し、部分的には地方氏族の系譜も含み、古代氏族研究に不可欠な史料である。現存本は、建武2<1335>年と延文5<1360>年の各奥書をもつ2系統の抄録本。栗田寛、佐伯有清、田中卓各氏に校訂本がある。この資料は主として、佐伯有清「新撰姓氏録の研究」考証編第三、山城神別、同第六に依った。

(次ページに続く)

2 古代文献史料に現われるカモ県主一族の氏名

No.	氏名	文献の名〔成立時期〕	記載内容	活動時期
1	賀茂建角身命	<p>积日本紀〔13世紀後半〕所引山城国風土記〔靈龜 3<717>年以前の文〕。</p> <p>本朝月令〔10世紀前半〕所引秦氏本系帳〔9世紀初〕も同文。</p>	<p>1)神武天皇の先導者。大倭の葛木山の峯に宿り、そこから山代国の岡田賀茂に至り、山代河を下り葛野河と賀茂河の合流点に来て賀茂川に石川瀬見の小川と命名した。この川をのぼり、久我の国の北の山基に至り、この地を賀茂と名付けた。丹波の国の神野の神伊可古夜日女を娶して生んだ子を、玉依日子、玉依日女という。その次にこの玉依日亮と賀茂別雷神を関係づける説話がある(二つの史料共通)。</p> <p>2)さらに、玉依日子を賀茂県主の祖とし、欽明天皇のとき<6世紀半>、天皇が大風を卜部伊吉若日子に勅して卜えさせたところ、賀茂神の崇であるというので、この神を祭らせたとあり、一説では玉依日女が秦氏の女となっている。</p> <p>3)そして次に、松尾大明神との結合が説かれ、鴨氏人は秦氏の婿であり、秦氏が愛婿のために鴨祭を議ったので鴨氏が鴨上社別雷神、鴨下社御祖神、松尾大明神の三所の大明神を祭っているという。これらは秦氏と賀茂氏の民族的結合を示す説話(この部分秦氏本系帳のみ)。</p>	神武天皇即位前後。
1'	(鴨建津見命)	<p>姓氏録山城神別〔弘仁 6<815>年〕</p>	<p>神魂命の孫、建角身命、武津之身命にもつくる。鴨県主、賀茂県主、矢田部、丈部、祝部等の祖。事績は姓氏録鴨県主の個所に記す。『日本書紀』、葛野主殿県主。</p>	同上
2	鴨建玉依彦命	<p>姓氏録山城神別〔弘仁 6<815>年〕</p>	<p>神魂命の裔。西瀛部の祖。</p>	同上

3	鴨県主大屋奈世	鴨脚家所蔵姓氏録 残簡鴨県主本系〔弘 仁6<815>年〕	玉依彦十一世孫大伊之伎命の子。成 務天皇の代、鴨県主に定められたと いう。	4世紀末～5 世紀初。
4	鴨県主荒熊	同上	大屋奈世の子	
5	鴨県主秋	同上	荒熊の子	
6	鴨県主荒木	同上	秋の子	
7	鴨県主長屋	同上	荒木の子	6世紀初?
8	鴨県主多々加比	同上	荒木の子、長屋の弟。一説に鴨氏系 図の異伝として、多々加比は小二目 命の三世の孫で、西瀨部氏の祖とさ れる(『鴨県主家伝』所引「鴨氏旧譜」 に多多加比<是西瀨部祖云々>此 の子孫等祠官に随いて大神に仕え 云々今猶雜仕駈人等是なり)。佐伯有 清氏はこの説が正しいとされる。	6世紀半頃の 人か?
9	鴨県主麻作	同上	長屋の男。	同上
10	鴨県主伊毛売	山背国愛宕郡某郷 計帳(正倉院文書)寧 楽遺文上174。	愛宕郡某郷戸主川造石弓の戸口。寄 口上日佐麻呂の母。年75。「和銅元 <708>年逃越前国」。岸俊男氏は某 郷を愛宕郡「粟田郷(左京区岡崎 辺)」、「錦部郷(左京区東山三条辺)」 に比定される。	天平5<733 >年頃?
11	鴨県主比佐祢売	同上。寧上173。	同上戸主川造安麻呂の戸口。寄口? 年70	同上
12	鴨県主豊足	同上。寧上174。	同上戸主川造石弓の戸口。年8。戸 主甥。 鴨氏系図12世代の正六位上兵部史 生豊貞と同一人か。豊足→豊定→豊 貞?書写の過程で変化(私見)	同上
13	鴨県主豊麻呂	同上。寧上174。	同上。年3。戸主甥。豊麻呂、豊次 は鴨氏系図などの伊奈目命の系 第10世代の豊萬呂、弟豊繼と同人 物の可能性。	同上
14	鴨県主豊次	同上。寧上174。	同上。年1、戸主甥、同上。	同上
15	鴨県主酒力自売	同上。寧上174	同上。年5、戸主姪。	同上
16	鴨県主族広	同上。寧上174。	同上。年18、寄口。	同上

	虫壳			
17	鴨 県 主 族 阿 理 力 貞 亮	同上。寧上 174.	同上。年 7. 姓の鴨県主族は鴨県主 の同族の意。	同上
18	鴨 県 主 皆 麻 呂	優婆塞貢進解。寧下 509	1)山背国愛宕郡賀茂郷岡本里の戸 主。天平6<734>年7月、その戸口 黒人が優婆塞として貢進された。 2)鴨氏系図の五百依の子皆麻呂と 同人物。その譜に、「奈良朝祝仕え 奉る。齋祝子、真吉女。和銅3<710 >庚戌年より合3年。とあり賀茂社 祝であった。	7世紀後半か ら8世紀半。
19	鴨 県 主 黒 人	同上。寧下 509.	戸主皆麻呂の戸口。年 23. 優婆塞と して貢進された。天平6年7月。淨 行8年。	8世紀半。
20	鴨 県 主 道 長	写書所解(正倉院文 書)。寧下 523.	1)經師。山背国愛当郡人。天平 18<746>年3月より同6月まで写 經所の經紙を受け取り、同18年6 月と閏9月の二度請經使として内裏 に赴き、同20年4月写經所の勞4 年で出家を願出た。時に年18。 2)鴨氏系図等の伊奈目命系の13世 代に豊貞の子道永があり、譜に「右 大舍人、無位」と記する。同一人の 可能性が高い。	8世紀半。
21	鴨 禰 疑 白 髮 部 訪 人	同上。寧下 523.	1)山背国愛当郡人。天平20<748> 年4月、写書所の勞4年で出家を願 出た。時に年18。 2)鴨禰疑白髮部は鴨社の禰宜の白髮 部氏の意。鴨氏系図等に伊弉命の系 の第5世代小止知命の譜に「鴨禰 宜白髮部腹と申す」とある。	8世紀半。
22	鴨 禰 宜 真 髮 部 津 守 (賀 茂 県 主 津 守)	続日本紀宝龜 11 年 4 月 条。	1)山背国愛宕郡人。宝龜 11 年<780 >4 月、他の十人と共に姓賀茂県主 を賜った。時に正六位上。続紀延暦 4<785>年 5 月白髮部の姓が先帝 光仁天皇の諱 白壁を犯すので真髮	8世紀後半

			部と改めよとの勅命で改姓した。続紀はこの事を宝亀 11 年に遡らせて記述するが、当時は白髮部。 2)鴨氏系図等に伊奈世命系の第9世代に、皆麻呂の弟麻呂の子に津守がある。これと同一人とする説が有力。譜に、「従七位上。式部位子、主水司、水部40年仕え奉る」とある。	
23	鴨県主国島 <small>くはしま</small>	平城宮出土木簡概報五5	1)二つの木簡がでた。一は、主殿寮御炬として主殿寮の火炬の小子、童女10名の中に、二は同じく4名の中に、彼の名がある。2)鴨氏系図に「従八位上。祝仕え奉る、斎祝子麻都比女、又継虫女二度。天平18年丙戌より、天平宝宇2年迄合せ12年。又、禰宜仕え奉る。天平神護3丁未年より天応2年迄仕え奉る・右人の時勅有り、宝亀11年4月を以って禰宜、祝に笏を把らしめ給う」とある皆麻呂の子国島と同一人。	8世紀後半
24	鴨大人 <small>うづ</small>	同上	木簡二に国島とともに名がある。	8世紀後半
25	鴨枚麻(呂) <small>ひらま(る)</small>	大宰府史跡出土木簡概報	「(欠) □□書生鴨枚麻呂(欠)」	不詳

注)竹内理三、平野邦雄、山田英雄氏編「日本古代人名辞典」巻二の記事を参考に他の資料を補って作成した。同辞典には古代の文献に出る天応年間(782)までの人名が記されている。

附1) 平安時代初期の文献にみえる賀茂県主・鴨県主の人名

No.	氏名	文献の名	記載内容	活動時期
1	賀茂県主立長 <small>たてなが</small>	1)太政官符・牒<延暦23~25> 2)日本後記	1) 正六位上、左少史 2) 叙外従五位下、左大史(弘仁1年11)	
2	賀茂県主広友 <small>ひろとも</small>	類聚国史九九 続日本後記	1)天長8<831>年12月辛未条、叙位 2)承和11<844>鴨上下大神宮禰宜外従五位下であったとあり、上下両	

			<p>社の禰宜を兼務していた。同紀の、同年 11 月壬子条に「王臣家及び百姓が北山で狩をして鴨川の水で洗いその水が神社に至って汚染する。汚穢<small>けがれ</small>の祟りが御トに出ている。違反者に重科を課するように勅命を出して欲しい」と乞うている。</p> <p>3) 広友は一説に鴨真叢(後出)の子氏主の三男で次の広雄の弟とされる(鳥居大路家祀官系図)。賀茂社家系図本巻に名あり</p>	
3	賀茂県主広雄	続日本後記	<p>承和 15<848>年に正一位勲一等賀茂御祖大社禰宜外従五位下であった。同紀の、同年 2 月辛亥条に「去る天平勝宝 2<750>年に御戸代田一町を頂戴して以来加増がなく、年中用途に欠く始末なので更に一町を加えて、別雷社に準じて二町に加増して欲しい」と勅許を願出た。</p>	
4	賀茂県主益雄	文徳実録	<p>同書仁寿 1<851>年 4 月戊午条に賀茂別雷神社禰宜とある。賀茂社家系図本巻に国史に見ゆとある 5 人の一。一説に、実は広雄の次男で時主の弟とする。</p>	
5	賀茂県主真当 <small>まとう</small>	三代実録	<p>同書貞観 5<863>年 4 月 15 日丁未条に、賀茂上社禰宜とある。賀茂社家系図本巻に国史に見ゆとある 5 人の一。</p>	
6	賀茂県主千繼 <small>ちつぐ</small>	同上	<p>同書貞観 16<874>年 8 月 20 日丙子条に、御祖社禰宜とある。</p>	
7	賀茂県主門麻呂 <small>かどまろ</small>	同上	<p>同書同日条に別雷社禰宜とある。賀茂社家系図本巻に国史に見ゆとある 5 人の一</p>	
8	鴨県主真叢(馬叢) <small>まみの</small>	類聚国史 十八	<p>1) 大同 4<809>年 11 月戊辰条に、「外従五位下鴨県主真叢に外従五位上<small>げじょうごいかみ</small>を授ける」とある。</p>	

			<p>次の目代と並んで賀茂二社の禰宜と記される。</p> <p>2) 上賀茂の「賀茂注進雜記」第七社家の部の初めに真叢のこの叙爵の記事を掲げ、又「賀茂社家系図本巻」にも国史に見ゆと、真叢の同文の記事を掲げて真叢が上社の禰宜であった事を示唆するが、目代については全く触れていない。</p>	
9	鴨 ^{かむ} 主 ^{ぬし} 目 ^め 代 ^{しろ}	同上	<p>1) 同書同<809>年同日同文中に、真叢に次いで、「従八位上鴨^{かむ}主^{ぬし}目^め代^{しろ}に外^と従^{じゆ}五位^ご下^げを授ける。並びに、賀茂二社禰宜なり」とあり、上下いずれか不明。</p> <p>2) 下社の「鴨^{かむ}主^{ぬし}家^け伝^{でん}」は、目代を真叢の弟で別雷社禰宜(上賀茂16流祖)とし、真叢は鴨^{かむ}下^げ社の禰宜としている。鳥居大路家所持の「賀茂系図」(祀官系図所収<無窮会文庫蔵>)も同じ。佐伯有清氏はこの説を採る。</p>	
10	鴨 ^{かむ} 主 ^{ぬし} 期 ^き 淨 ^{じやう} 益 ^{えき}	類聚国史十九	天長元<824>年4月乙未条、鴨御祖大社の祝に任ぜられた。	
11	鴨 ^{かむ} 主 ^{ぬし} 時 ^{とき} 主 ^{ぬし}	三代実録	貞観5<863>年4月15日条、賀茂下社禰宜で外 ^と 従 ^{じゆ} 五位 ^ご 下 ^げ を授かる。	
12	鴨 ^{かむ} 主 ^{ぬし} 貞 ^{てい} 基 ^き	三代実録	元慶8<884>年4月3日癸巳条、賀茂別雷社禰宜で外 ^と 従 ^{じゆ} 五位 ^ご 下 ^げ を授かる。賀茂社家系図本巻に父祖不詳と記す6人の一	

注)佐伯有清「新撰姓氏録の研究」考証編第三・第六、井上光貞「カモ県主の研究」参照。

(以上平成十四年八月廿四日 稿)

附2) 賀茂県主系図の諸写本

	名 称	所蔵者	整理番号	摘要
一、	賀茂社禰宜神主系図	宮内庁書陵部	一〇九・四九八	賀茂社略記並系図・所収
二、	賀茂県主系図(二卷)	宮内庁書陵部	一〇九・四〇五	十一の明治期の写か(井上教授)
三、	賀茂社禰宜神主系図	筑波大図書館	タ一二〇・六三	鈴木真年氏旧蔵
四、	賀茂社家系図	国会図書館	八三二・三〇五	「賀茂社記録・所収」近世中期成立
五、	賀茂社家系図	千葉義孝		近世末期写
六、	賀茂社家総系図			多賀宗集「鎌倉時代の思想と文化」所引
七、	賀茂社家総系図	弘文荘	待買古書目 33	鎌倉末写一舗・応永二年前神主豊久識語付
八、	賀茂県主系図	内閣文庫	安政 4 年飯田忠彦撰(系図纂要)全百三十巻の一	系図纂要第十五所収
九、	祠官系図	無窮会文庫		賀茂社・矢田部・祝部系図を所収
十、	諸社祠官系譜	静嘉堂文庫		九と同系、山田以文氏旧蔵
十一	賀茂社禰宜祝系図 <small>(縦0.5×19.5m)</small>	東京大学史料編纂所		賀茂同族会蔵「賀茂社家総系図」三冊本とほぼ同内容。第一<諸祖 A,B,C,D,四本>第二在実以下、第三 16各流。清茂翁の系図を以てこれを写す
十二	賀茂県主系図(二卷)	東京大学史料編纂所		二、十一に同系。共に十一の明治期の写本か。

(平成十四年七月廿四日・藤木文雄 調)

上表は井上光貞：カモ県主の研究(日本古代国家の研究・岩波書店)、杉山重行：賀茂重保考(日本大学経済学部紀要)、宝賀寿男：古代氏族系図集成(古代氏族研究会)によってまとめた。

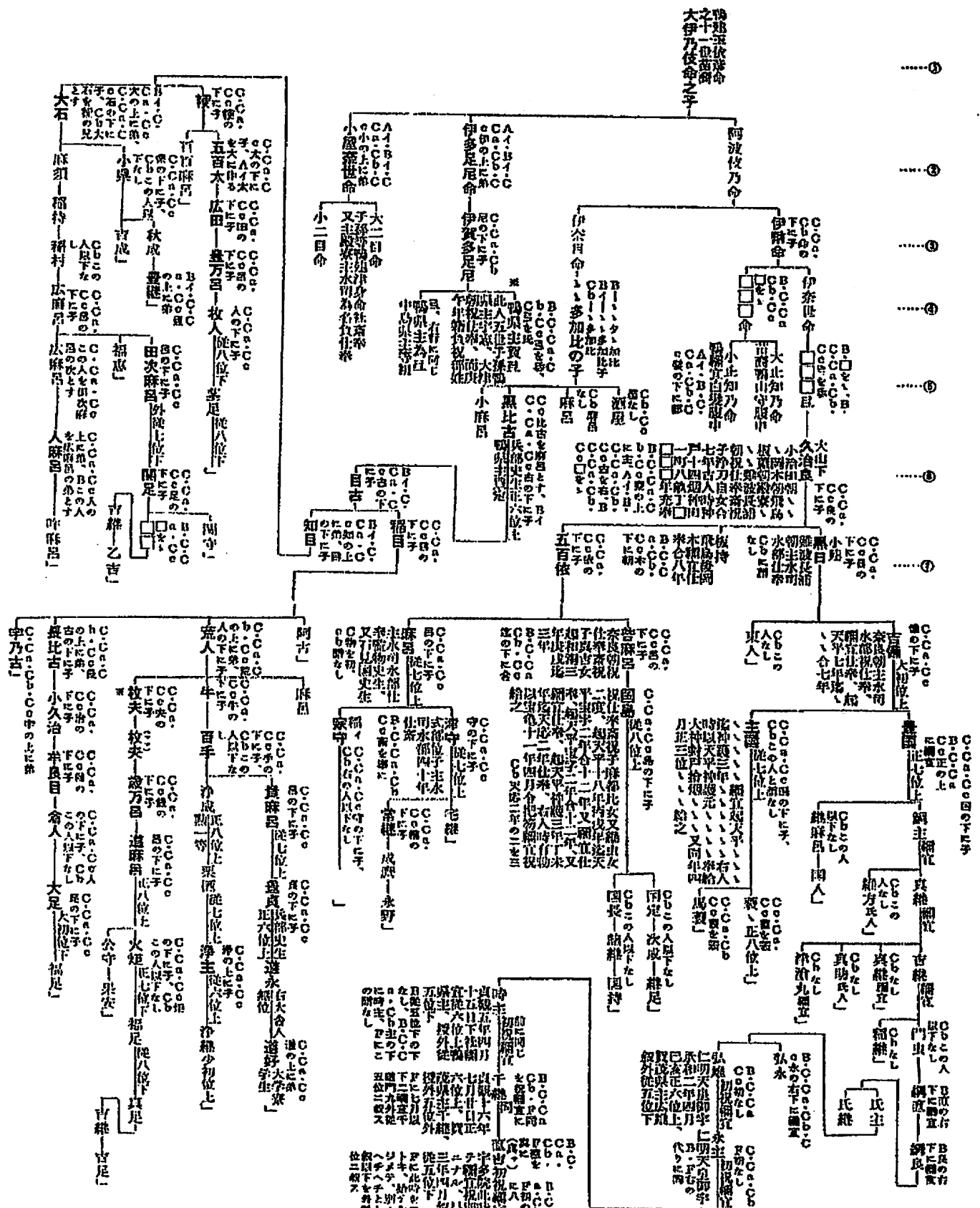
注1) 賀茂県主同族会蔵「賀茂禰宜神主系図全十六巻」(昭和44年6月20日庁保費904号重要文化財)並びにその複写類は含まない。「賀茂社家惣系図」二卷(天明六年二月蔣池直一撰・冊子本)も同様。

注2) 鴨氏関係系図も含まない。これについては拙稿鴨・賀茂県主系図諸本校合(井上光貞教授・カモ県主の研究要約) <平成十三年七月>を参照されたい。

附3) 鴨県主系図諸本の校合(井上光貞 カモ県主の研究の文を図表化)

番号	名称	所在	内容のあらまし	書誌・摘要
A	賀茂神官鴨氏系図	続群書類従所収	鴨建玉依彦命之十一世孫大伊之岐命以下弘継、弟祐茂、祐雄、祐夏、祐守、祐興 <small>(寛安二年(9月)卒)</small> 迄。梨木流主体。	所伝の残る奈良朝豊国以前と最近7代の間にF本調主以下を挿入、南北朝成立 <small>(969?)</small> 。
B	河合神職鴨県主系図	続群書類従所収	A本と同内容。後を書継ぎ永祐 <small>(延喜(8)卒)</small> の五人の子 <small>(その一人は祐之)</small> で終わる。	古写本未詳。祐之の纂 <small>(江戸中(期)成立)</small> ?異本校合の跡 <small>(B本)</small> 。
C	賀茂御祖皇太神宮 禰宜河合神職鴨県主系図	内閣文庫蔵 <small>(加茂・杜本・松尾・住吉・大伴系図四十葉のうちの六葉)</small>	大伊之岐之命に始まり祐之の時代で終わる。	浅草文庫蔵印。 <small>(明治十七年十一月廿七日)関了、土岐致孝の複製</small> B本に同じ。
Ca	同上	座田司氏蔵 山根輝実所持本	C本とほぼ同じ。	弘化二年座田太氏書写。
Cb	賀茂系図	青木陳実本	神皇産霊尊命・建角身命・玉依彦命/玉依姫命に継ぎ十代経て大伊之岐命とす。	伴信友所見の三本の中の一カ。
Cc	同上	同上	大伊之岐之命に始まり奈良平安初で終わる。	Cb、Cc二本は座田司氏Ca校合。
D	鴨県主系図本源	上賀茂神社(現賀茂県主同族会)蔵 戸田保遠/保憲所持之本	高御産霊尊命・神皇尊霊命に始まり四代後賀茂建津之身命、次いでCb諸神を経て大伊之岐之命、その後は大略ABCに似るが付会牽強の跡が多い。	泉亭俊春 <small>(天明(2)卒)</small> 編か。市惟頭書写。泉亭家系の本。善本に非ず <small>(井上教(授)所見)</small> 。
Da	系譜	大住壮夫蔵 鴨社家林家蔵印あり	Dと同様。他に梨木、林、南大路、田中等諸流を加える。	同上。Db本あり(青木陳実蔵本と校合)
E	禰宜家家譜	東急文庫蔵 (元久原文庫)	梨木祐之、泉亭俊春で区切り <small>(寛)</small> 、あと書継ぎ。叙述体だが、BC本と同じ。	康廉縣主 <small>(享保(10)七年卒)</small> の本カ(鴨林蔵本・康廉之印)
F	鴨御祖社系図 (下鴨禰宜祝部系図)	賀茂県主系図(所謂古系図)の第三 <small>(横1,6)米</small> 第四 <small>(横1,03)米</small> 部として記載。	鯛主 <small>(第十代平(安)初期)</small> に始まり奈良時代前を欠くが、この本がA本の底本と見られる(A本はF本の前後に豊国以前の代と最近七代)を繋ぎ南北朝初に成立。	「古系図」と一緒に鎌倉中期成立(古系図は清平・驗平(まで一筆、鎌倉初期成立。恒平以下密町)中期まで書継ぎ)。

附 4) 賀茂神官鴨氏系図(井上光貞氏校訂・同カモ県主の研究・岩波書店より)



参考文献(順不同)

- 佐伯有清 「新撰姓氏録の研究」 考証編 第三、第六 (吉川弘文館)
同 上 「古代氏族の系図」 鴨県主の系図 (学生社)
竹内理三他編 「日本古代人名辞典」 第二卷 (吉川弘文館)
井上光貞 「日本古代国家の研究」カモ県主の研究 (岩波書店)
岸 俊男 「日本古代文物の研究」山背国愛宕郡考 (塙書房)
杉山重行 「月詣和歌集の校本とその基礎的研究」 (新典社)
坂本太郎他校注 「日本書紀」上 日本古典文学大系 (岩波書店)
直木孝次郎他訳 「続日本紀」全四卷 (平凡社)
秋本吉郎校注 「風土記」日本古典文学大系 (岩波書店)
柴田実編 「賀茂」神道大系 (神道大系出版会)
宝賀寿男編 「古代氏族系図集成」 (古代氏族研究会)
賀茂県主同族会蔵 「賀茂禰宜神主系図」全16巻(凡例目録共)

以 上